

平成23年度 青少年教育施設を活用した交流事業

平成23年度

海は人をつなぐ



平成23年6月22日（水）～7月2日（土）

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立若狭湾青少年自然の家

目 次

1. 事業概要	・・・・・・・・・・・・・	1
2. 事業のコンセプト	・・・・・・・・・	2
3. 曜程	・・・・・・・・・・・・・	3
4. 参加者	・・・・・・・・・・・・・	4
5. 活動の概要	・・・・・・・・・・・・	5
6. 事業成果	・・・・・・・・・・・・	15

1. 事業概要

国際化が進展する中、青少年自らが国際社会の一員であることを自覚し、異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくため、東アジアを中心とした海外の青少年を日本に招き、青少年教育施設を中心とした周辺のスポーツ・文化施設、高等学校・高等専門学校・大学等関係機関と連携し、地域の特性を生かした自然体験・スポーツ体験・文化体験等の機会を提供することにより、日本に対する理解増進を図るとともに、招いた海外の青少年との国際交流体験を通じて、日本の青少年の国際的視野を醸成し、東アジアの中核を担う次世代リーダーを養成した。

国立若狭湾青少年自然の家では大韓民国・南ソウル大学と連携し、韓国で日本語を学ぶ大学生らが、日本海沿岸の行程を自転車で移動して、各地の市民とふれあいながら共同で海流によって漂着した大陸由来のゴミの回収作業を行うことで国際的な環境問題について考える場を持った。最終目的地の若狭湾青少年自然の家ではカッター、スノーケリングなど海の自然活動プログラムを体験し、また日本の学生や市民と環境フォーラムを開催することで、日韓間に存在する環境を中心とした諸問題をともに学び、語りあい互いの文化を理解しあつた。日本側交流参加人数はのべ 672 名(次世代リーダーおよび一般参加者)にわたり、交流を深めることができた。

韓国学生は海を中心とした環境問題や日本の文化・歴史に対する理解を深めるとともに学習した日本語を活用し実践する場として総合的な能力を向上させた。日本学生は漂着ゴミ回収と簡易な分析や環境交流フォーラムを韓国学生と共同で行うことで交流を深めつつ環境問題についての共通理解を図り、アジアの中核となる次世代リーダーとして必要とされる国際的コミュニケーション能力、問題認識能力、情報発信力といった総合的な人間力を高めることができ、今後、アジアを牽引していく人材として活躍することが期待される。

2. 事業のコンセプト

海の環境を考え、行動し、海を体験する

- 海流による漂着ゴミを共に回収
- 学びあい理解しあう環境交流フォーラムを開催
- 青少年自然の家での海洋アクティビティ体験
- 総合的な人間力を備えた次世代リーダーの養成

韓国学生の日本理解の増進

- 海の道の歴史をたどり、文化に触れる
- 自転車で沿岸200km 自転車の目線で市民との交流
- 滞在地での環境保全活動、環境学習
- 韓国で学んでいる日本語のスキルアップ、実践的応用

次世代リーダーの人間力の向上

- 求める3つの資質 コミュニケーション能力／問題認識能力／情報発信力
- 総合的な人間力の向上とリーダー資質の獲得
- アジアの中核として活躍できる次世代リーダーの養成

事業の評価方法

- 個人の成果を分かち合い振り返るフォーラム
- 事業を点検し達成度を検証する評価会
- 定量的・定質的アンケート調査

3. 曜 程

期日	内容	実施場所等
5月14日（日）	行程事前踏査	鳥取県鳥取市から福井県小浜市
5月31日（火）	第1回企画委員会	小浜市立内外海小学校
6月22日（水）	ソウル発関西空港着 宿舎へ移動	宿泊：たけのこ村（兵庫県豊岡市竹野町）
6月23日（木）	午前：ガイダンス 午後：環境学習 夜：ミーティング	宿舎 竹野スノーケリングセンター（兵庫県豊岡市竹野町） 宿泊：たけのこ村（兵庫県豊岡市竹野町）
6月24日（金）	午前：環境学習 午後：京丹後市へ移動、環境学習 夜：ミーティング	コウノトリの郷公園（兵庫県豊岡市） 琴引浜鳴き砂文化資料館（京都府京丹後市網野町） 宿泊：晴れたり曇ったり（京都府京丹後市）
6月25日（土）	午前：海浜清掃 漂着物回収 午後：宮津市へ移動 夜：ミーティング	砂方海岸および琴引浜（京都府京丹後市網野町） 宿泊：天橋立ユースホステル（京都府宮津市）
6月26日（日）	午前：海浜清掃 漂着物回収 午後：歴史学習および施設見学 夜：交流会	天橋立（京都府宮津市） 舞鶴引揚記念館、浮島丸殉難者追悼の碑 他 宮津市府中地区公民館 宿泊：天橋立ユースホステル（京都府宮津市）
6月27日（月）	午前：交流事業 午後：高浜町へ移動 交流会	与謝野町立三河内小学校 高浜町韓国文化交流センター保寧の家、国民宿舎城山荘 宿泊：国民宿舎城山荘（福井県大飯郡高浜町）
6月28日（火）	午前：海浜清掃漂着物回収 午後：小浜市へ移動、交流事業	釧迎浜（福井県大飯郡高浜町） 小浜市内外海小学校、韓国船救護記念碑（福井県小浜市） 宿泊：国立若狭湾青少年自然の家
6月29日（水）	午前：交流会（意見交換会） 午後：環境学習 夜：交流事業	福井県立大学福井キャンパス（福井県吉田郡永平寺町） 福井県海浜自然センター（福井県三方上中郡若狭町） 国立若狭湾青少年自然の家 宿泊：国立若狭湾青少年自然の家
6月30日（木）	午前：自然体験学習 午後：自然体験学習・漂着物回収 夜：伝統工芸品製作体験	国立若狭湾青少年自然の家（福井県小浜市） 赤石の浜（福井県小浜市） 国立若狭湾青少年自然の家 宿泊：国立若狭湾青少年自然の家
7月1日（金）	午前：フォーラム事前準備 午後：環境を考える交流フォーラム 評価会・第2回企画委員会 夜：ミーティング	福井県立大学（小浜キャンパス） 宿泊：漁家民宿（福井県小浜市田鳥）
7月2日（土）	午前：バスにて関西空港に移動 午後：日本出国、空路にてソウルへ	---
10月31日（月）	第3回企画委員会	福井県立大学（小浜キャンパス）

4. 参 加 者

〈交流相手国=大韓民国〉

青少年参加者	人数： 28人	対象：南ソウル大学を中心とした日本文化と環境問題に关心を持つ大学生。募集は韓国国内での公募によった。
引率者等	人数： 2人	対象：南ソウル大学を中心とした日本語、日本文化、環境問題にかかわる大学教官。

〈日本国内〉 延べ青少年参加者人数： 377 人 (配置指導者等を除く。)

述べ 参加者人数： 672 人 (配置指導者、一般市民を含む。)

青少年参加者募集方法：HPでの公募、新聞紙上での告知、福井県内大学を中心とした公募によった。

期 日	内 容	実施場所	青少年 参加者人数	配置 指導者数	(一般 市民)
6月24日（金）	環境保全作業	豊岡市祥雲寺（兵庫県）	0	0	15
6月25日（土）	海浜清掃 漂着物回収	砂方海岸（京都府京丹後市網野町） 琴引浜（京都府京丹後市網野町）	25	2	137
6月26日（日）	海浜清掃 漂着物回収	天橋立（京都府宮津市）	2	2	10
6月26日（日）	交流会	宮津市府中地区公民館（京都府）	2	1	31
6月27日（月）	交流会	与謝野町立三河内小学校（京都府）	143	16	0
6月27日（月）	交流会	城山荘（福井県大飯郡高浜町）	0	5	0
6月28日（火）	海浜清掃 漂着物回収	和田浜（福井県大飯郡高浜町）	0	0	44
6月28日（火）	交流会	小浜市立内外海小学校（福井県）	10	3	0
6月29日（水）	交流会（意見交換会）	福井県立大学 福井キャンパス	42	5	0
6月29日（水）	交流会	国立若狭湾青少年自然の家（福井県）	142	13	2
6月30日（木）	海浜清掃 漂着物回収	赤石浜（福井県小浜市）	2	1	0
7月 1日（金）	環境交流フォーラム	福井県立大学 小浜キャンパス	9	5	3
		合計	377	53	242

5. 活動の概要

第1日目 6月22日 (水)

・移動日

ソウルを出発した招聘団一行は昼過ぎに関西国際空港に到着した後、本日の宿舎である兵庫県豊岡市竹野町の「たけのこ村」へ移動した。敷地内の河川では蛍が飛び交っていたが、都会育ちの韓国学生たちのほとんどは初めて見る者が多く、日本の豊かな自然に驚きの声を上げる様子が見られた。宿舎では全体ミーティングを行い、自転車行程に備えての安全確認や事業全体の詳細な説明が行われた。



第2日目 6月23日 (木)

・環境学習（環境省竹野スノーケリングセンター・ビズターセンター）

環境省竹野スノーケリングセンター・ビズターセンターにて本庄四郎所長より漂着物に関するレクチャーを受けたのち、本庄所長のご厚意で磯観察・生物観察の実習を行った。館内には漂着物に関する様々な展示があり、ハングル文字の書かれたものも多数見かけられた。学生たちは、生物の豊かさを育む一方で、人間が流したごみも運んでいく海の機能の多様性について考えさせられていた様子であった。



第3日目 6月24日 (金)

- ・環境学習 (豊岡市コウノトリ文化館コウノピア 琴引浜鳴き砂資料館 琴引浜)
- ・自転車移動

本日より本格的に自転車での移動を開始した。豊岡市コウノトリ文化館コウノピアは兵庫県立コウノトリの郷公園の一角にある施設である。ここで豊岡市役所の歓迎行事に参加した後、環境学習を行い、コウノトリと人間の共生する環境を守り育む実践を行っている地元の方々との共同作業を実施した。田圃の水路に「生物隠れ場」を3か所設置し、渇水期にコウノトリの餌となる生物が他の外敵から身を守る場所を作った。



その後、兵庫県豊岡市から京都府に移動し、京丹後市へと自転車を進めた。琴引浜は日本で有数の「鳴き砂海岸」であるが、住民が環境維持のために活発な活動に取り組んでいる地域である。鳴き砂資料館にて海浜の環境について学び、翌日の漂着物回収作業の現場も下見した。浜には着衣で入浴する露天風呂があり、浴槽での入浴習慣のない韓国学生には大好評であった。また、他の入浴客との「裸のふれあい」もあり、思いがけない日韓交流の場となった。



第4日目 6月25日（土）

- ・漂着物回収（砂方海岸、琴引浜）
- ・自転車移動

早朝より宿舎前の砂方海岸にて漂着物回収を行った。ここは地形と海流の関係で漂着物が多く流れ着く場所であり、また重機等の搬入が困難なため、回収作業が困難な地域であり多くの漂着物がされている。陸上由来の漂着物に交じって、ハングルの書かれた半島由来の漂着物を回収することができた。



琴引浜では、京都北都信用金庫の皆さんと共同で海浜清掃作業を行った。琴引浜は鳴き砂を保護するために、日ごろから清掃活動が行われているために人工の漂着物は少なく、回収されたものは流れ藻など自然物が多くみられた。また、管理事務所にてこれまでに漂着して回収された注射器や薬品容器などの医療系ゴミを見せていただき、海洋投棄の実際について考える機会を得ることができた。



こののち、丹後半島を自転車で縦断して宮津市に入った。翌日は自転車移動がない休養日となるために少しでも距離を稼ぐため、舞鶴市の手前まで自転車を進め、由良地区にて本日の行程を終了した。途中、地酒の酒蔵であるハクレイ酒造を見学し、日本文化の一端に触れることができた。



第5日目 6月26日 (日)

- ・漂着物回収 (天橋立)
- ・歴史学習、施設見学 (舞鶴引揚記念館、浮島丸殉難者追悼の碑)
- ・交流会

日本三景の一つである天橋立は日頃より地域住民の手によって環境保全がなされている。地元の方と一緒にになって作業を進めたが、人工物はほぼ見つからず、アマモなどの海草類を回収することとなった。前日の琴引浜と同様に、環境を維持していくために地域住民が愛着を持って保全活動を進めている様子から、韓国学生は数多くのことを学び、考えていた。



午後は舞鶴市まで足を延ばし、歴史学習・施設見学として、舞鶴引揚記念館と、浮島丸殉難者追悼の碑を訪問した。日韓間の歴史認識問題には本事業でも正面から向き合いたいと考え、韓国側の意向もあって実施したが、これまでにそれぞれが受けてきた歴史教育から得ている知見を十分に改めることは難しく、各人の取り様も様々なものとなった。



その後、宮津市に戻り府中地区公民館にて丹波ロマンの会主催の交流会を行った。韓国学生たちは南京玉簾や皿回し、盆踊りなどを一緒に楽しみ、海でつながった交流の輪が一層深まったことを実感した。



第6日目 6月27日 (月)

- ・交流会（与謝野町立三河内小学校、高浜町国際交流協会）
- ・施設見学（高浜町韓国文化交流センター保寧の家）
- ・自転車移動

本日より自転車移動を再開した。行程の中で、与謝野町立三河内小学校と高浜町韓国文化交流センター保寧の家を訪れ、施設見学や交流行事に参加した。三河内小学校では授業参観のうちに児童と一緒に給食を食べ、日本の学校教育についての見聞を広めることができた。夜は高浜町国際交流協会主催の歓迎交流会に参加し、これまでの漂着物回収から得た各自の感想を日本人交流者の前で発表する機会を持った。





第7日目 6月28日 (火)

- ・漂着物回収（釣迦浜）
- ・交流会（小浜市立内外海小学校）
- ・施設見学（韓国船救護記念の碑）
- ・自転車移動終了

釣迦浜の回収作業では、これまでに未確認であった北朝鮮由来の漂着物を回収するという一大トピックがあった。本事業を含め、長年にわたって大陸・半島由来の漂着物回収をテーマの一つに日本との交流を行っている南ソウル大学安副教授の取組みの中でも初の出来事であり、このことは地元メディアにも大きく取り上げられた。



自転車行程も最終段階に入った。行程の中でも交通量が最も多い難所を控え、細心の注意を払って通行したが安全を最優先したい日本側と効率面を考えた韓国側の主張に意見の相違があり、途中行程を変更する事態となった。今後の自転車利用に関して一石を投じることとなったが、ゴール地点までの道のりを順調に進め、本日の訪問先である小浜市立内外海小学校へ到着した。内外海小学校では児童のよさこいソーラン踊りで盛大に迎え入れられた。



最後の行程では、30台の自転車を連ね、全員でゴールの小浜市泊地区にある韓国船救護記念の碑を目指した。これまで最大で15台の自転車を交代しながら進めてきたが、200km超にわたる自転車行の総仕上げをしたいという強い希望もあり実施した。韓国船救護記念の碑は、百年以上前の史実を記念して建立されているが、この碑に刻まれている「海は人をつなぐ母の如し」を本事業のタイトルの一節としていることからも、ゴールとしてふさわしい場所として設定した。



第8日目 6月29日 (水)

- ・交流会・意見交換会（福井県立大学福井キャンパス）
- ・環境学習（福井県海浜自然センター）
- ・交流コンサート（愛知県扶桑町立扶桑北中学校 国立若狭湾青少年自然の家にて）

自転車行の疲れを癒す間もなく、本日も精力的に活動を行った。福井県立大学福井キャンパスへ移動し、交流会と意見交換会を行った。日韓双方の学生は環境問題からそれぞれの国の風習・風俗などお互いに打ち解けあいながら様々なトピックで語り合った。その後、福井県若狭町の福井県海浜自然センターでこれまでの漂着物回収のまとめとなる環境学習を行い、夜は若狭湾青少年自然の家に同じく滞在している扶桑町立扶桑北中学校の生徒と交流コンサートを行った。



第9日目 6月30日 (木)

- ・自然体験学習・漂着物回収（国立若狭湾青少年自然の家）
- ・伝統工芸体験（国立若狭湾青少年自然の家）

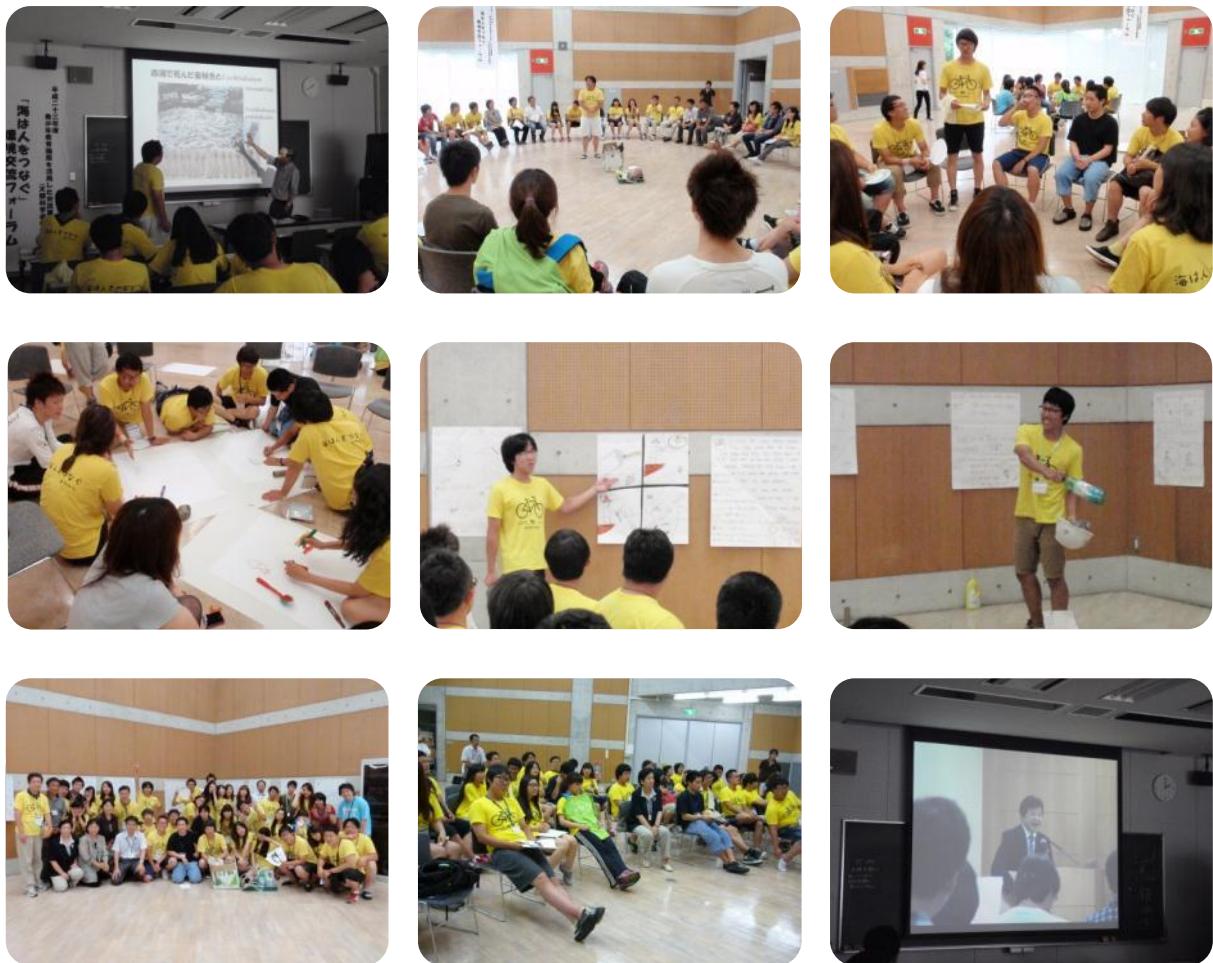
本日は自然の家を拠点に海洋アクティビティの自然体験学習と伝統工芸体験を行った。午前中にカッター漕艇、午後にスノーケリングと合わせて漂着物回収を敷地内の赤石の浜で実施した。海に漕ぎ出し、自分の体を海に浮かべ海中を眺めることでこれまでの活動を新たな視点からふり返ってもらいたいという願いを込めて自然体験学習を設定した。また、夜には福井県小浜市の伝統工芸である若狭塗箸の研ぎ出し体験を行った。



第10日目 7月1日 (金)

- ・環境を考える交流フォーラム（福井県立大学小浜キャンパス）
- ・評価会（福井県立大学小浜キャンパス）

本事業の集大成となる環境を考える交流フォーラムを福井県立大学小浜キャンパスで実施した。日本海側唯一の海洋系学部を持つ同キャンパスで学ぶ学生との交流フォーラムにおいて韓国学生はこれまでの事業を振り返り、日本側学生は自身の専攻や最新の研究成果をもとに意見交換を行った。また合わせて本事業の評価会も同会場で実施し、今回の事業や次年度以降の事業継続に向けての建設的な意見が交わされた。



第10日目 7月2日 (土)

・移動、出国



早朝に福井県小浜を出発しバスで関西国際空港へ向かった。途中、大阪で市内観光を実施した。短時間の大阪滞在であったが、韓国学生は日本での最後の思い出づくりに精力的に歩き回った。飛行機は定刻に出発し帰路についた。

6. 事業成果

① 環境交流フォーラム

日韓学生が事業実施中に学び実践したことを発表する場として環境交流フォーラムを実施した。フォーラムではグループセッション形式で海の環境問題について、1)どのように現状を認識したか、2)どのような解決方法を考えたか、3)それを実践するためにどのような行動を起こすか、を中心にまとめる。さらに、4)事業中に学んだこと、体験したことから自分が何を得たのか、5)（歴史や文化を含めた）事象に対する理解がどう深まったのか、そして6)未来の日韓関係への想い、の項目についてグループでの意見交換と全体での発表を行う。フォーラムで発表された内容は本事業の狙いが参加者にどのように受け止められたかを間接的に観察する機会として活用するとともに4段階評価法でのアンケート調査を行った。日韓の大学生について共通する質問項目の結果は以下の通り。表中の数値は上位2段階の数値合計である。

質問項目	韓国	日本
海の環境問題についての理解が深まったか	100%	100%
環境問題を解決していくための意欲が高まったか	97%	87%
日韓間の歴史について理解が深まったか	77%	78%
国際関係を発展させていくための意欲が高まったか	100%	87%

② 評価会

フォーラム後実施した評価会では事業参加者、スタッフによって本事業の成果を点検・評価し、実施内容の有用性について検証した。その際に日本入国の一際に韓国側参加者が記入したレディネスシートを元にふりかえりを行った。
(レディネスシートの集計は巻末に記載)

本事業は大きく2つのパートに分かれ、前半は自転車で移動しながら漂着物の回収・分析を行うとともに各地での交流を行った。後半は国立若狭湾青少年自然の家を拠点として自然体験活動を行うとともに、前半日程の活動を元に学びをさらに深め、日本の大学生との交流を深めた。

各地での交流や学生間の交流では日韓双方の参加者が意欲的に活動を深め、様々な内容での意見交換や情報交流があった。言語の壁はあったが、それぞれに工夫を凝らして、コミュニケーション能力を向上させ、異文化理解の単著をつくれたこと、また今後の語学学習への意欲が増進したという感想が数多く聞

かれたことは、大きな成果であった。また、前半日程では、海流に沿って 200 km超を自転車で移動し、漂着物回収などの沿岸域での活動が主であったが、後半日程の自然体験活動では、沖合へこぎ出すカッター活動や自身の体を海に浮かべ、自身の目で海中を観察するスノーケリング活動を行った。全日程を通して「海」を多角的に捉え、立体的に活動を実施したが、このプログラム構成は参加者に大変好評であった。

自転車移動では事前の下見を含め十分な準備を実施していたが、日韓間での安全認識に相違があり、継続して次年度も実施できるかどうか今後検討する課題にあげられた。

③ 事業の成果

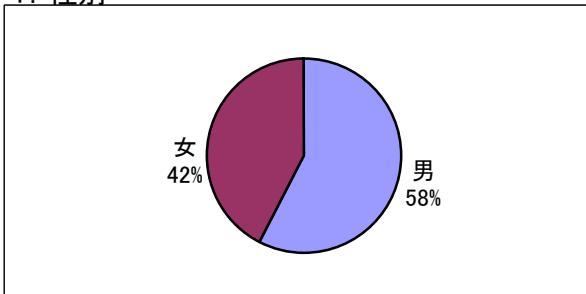
韓国学生は各地にて環境保全に関わる地域住民とともに海浜清掃作業を行って交流をはかった。コウノトリ保護に取り組む兵庫県豊岡市から遭難した韓国船を救護した史実の残る福井県小浜市まで自転車にて移動しながら、環境、文化、歴史を学び日本理解が増進され、また交流を通じてコミュニケーション能力および日本語の活用能力が向上した。

日本側参加者は学生および各地にて環境保護に取り組む市民団体が主体となった。各所で漂着ゴミ回収と簡易な分析を韓国学生と共同で行うことで交流を深めつつ環境問題についての共通理解を図ることができた。また、環境交流フォーラムの実施によってアジアの中核を担う次世代リーダーに必要と考えられる3つの資質を向上させることができた。韓国学生との交流を通して国際的なコミュニケーション能力を、同じ問題を共有することで問題認識能力を、環境交流フォーラムに主体的に参加することで情報発信力をそれぞれに高められた。日韓学生ともに総合的な人間力を養うことができたことで今後、次世代リーダーとしてアジアの中核として活躍することが期待される。

平成23年度海は人をつなぐ アンケート集計
6月29日(水)実施 交流授業 於 福井県立大学福井キャンパス

【参加者について】

1. 性別



男	19	除指導者3
女	14	
計	33	

【アンケート集計結果: 日本の大学生・指導者】

(1)この事業について4段階で答えてください。

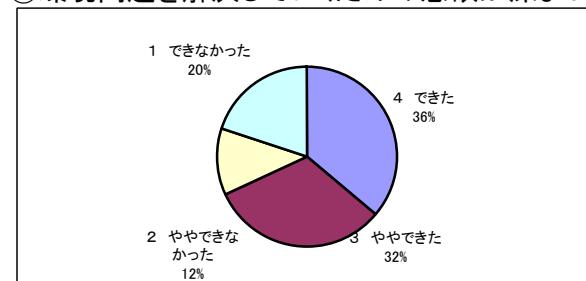
①海の環境問題について理解が深まったか



回収数28、回収率84.8%

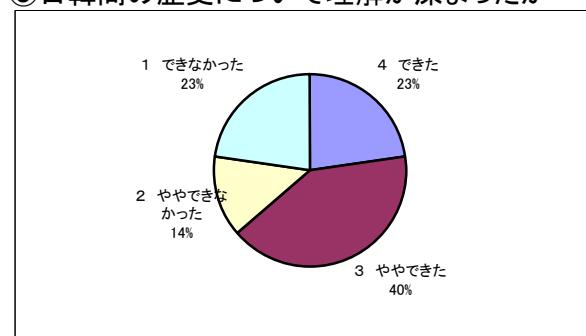
4 できた	6
3 ややできた	10
2 ややできなかつた	2
1 できなかつた	6
未回答	5

②環境問題を解決していくための意欲が深まったか



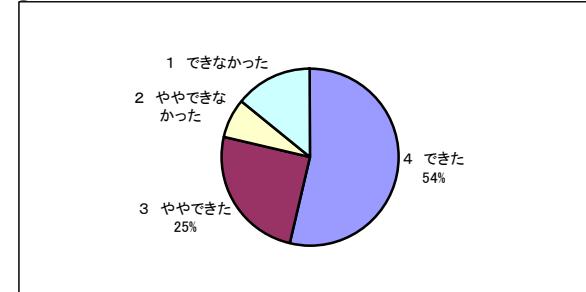
4 できた	9
3 ややできた	8
2 ややできなかつた	3
1 できなかつた	5
未回答	4

③日韓間の歴史について理解が深まったか



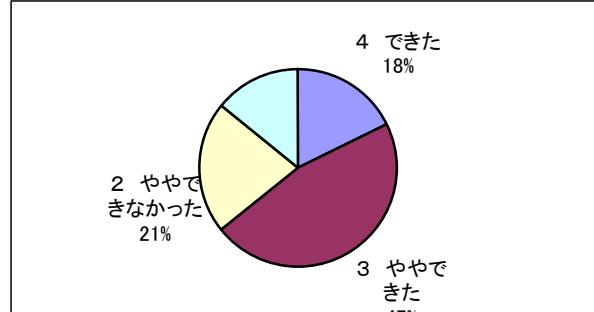
4 できた	5
3 ややできた	9
2 ややできなかつた	3
1 できなかつた	5
未回答	7

④国際関係を発展させていくための意欲が高まったか



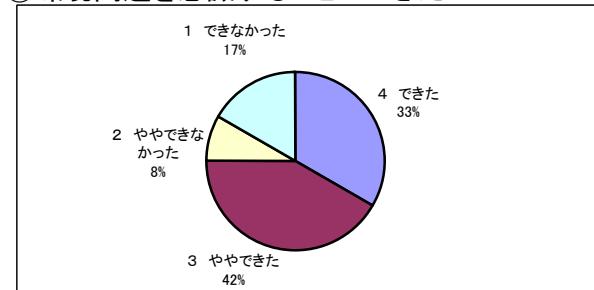
4 できた	15
3 ややできた	7
2 ややできなかつた	2
1 できなかつた	4
未回答	1

⑤国際的なコミュニケーション能力が身についたか



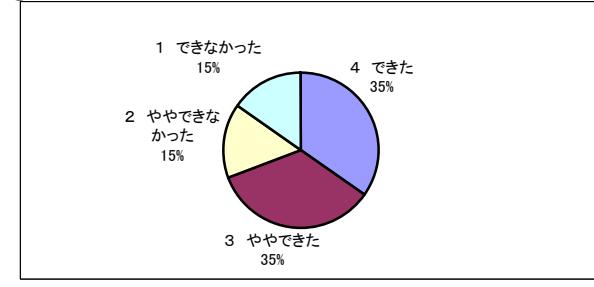
4 できた	5
3 ややできた	13
2 ややできなかつた	6
1 できなかつた	4
未回答1	

⑥環境問題を意識することができたか



4 できた	8
3 ややできた	10
2 ややできなかつた	2
1 できなかつた	4
未回答5	

⑦適切に情報発信することができたか



4 できた	9
3 ややできた	9
2 ややできなかつた	4
1 できなかつた	4
未回答3	

自由記述

①環境問題について考えたこと

韓国も日本と同じような問題をかかえていた

暑い中自転車で回りながらゴミひろいをすることはよほどの熱意がないとできないと思う。自分も何か熱中できることを見つけたいと思った。

韓国も日本と同じようにリサイクルなど環境問題について考えていることがわかり、環境問題について理解が深まりました。これから互いの国が協力して解決していきたい

日本の生物が韓国で外来生物として生息していることがわかった。原子力発電の割合は日本より多いが無人島で居住区から話しているので安全である。その上自然エネルギーは日本より多い。

②国際問題について考えたこと

言葉が違うので、なかなかコミュニケーションが難しいと感じたが言葉の壁は乗り越えられると思いました。

文化の相互理解は難しいと思った。思い込みを直すことが大事。

歴史の関係を乗りこえて友好を続ける

日本人は全く韓国語が話せないので韓国的学生は日本語がとても上手くてびっくりした

韓国の方がとてもきさくで話しやすくて楽しかった！韓国のイメージが変わった

もっと交流したい。すごく楽しかった！

もっと韓国も含めて世界を知りたいと思った

言葉がしゃべれないと交流は難しいと思った

③本事業に参加しての意見・感想

韓国との親近感深まった。言葉を理解するのが難しかったけど充実していた

相手はあまり日本語がわからないようだったが、相手の方から積極的に質問してくれたことにおどろきました。自分ももっと積極的になると反省した

とても有意義な時間だった。またこういう機会を作って欲しい

楽しかった。竹野スノーケリングセンターから参加できたらよかった

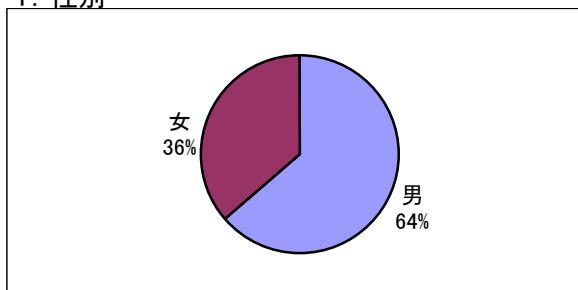
日本は国際的に韓国と仲が良くないと思っていたが話してみると全然そんな事はなく安心した。

すごく仲良くなれた。またあるといいと思う。

平成23年度海は人をつなぐ アンケート集計
7月2日実施 環境交流フォーラム 於 福井県立大学小浜キャンパス

【参加者について】

1. 性別

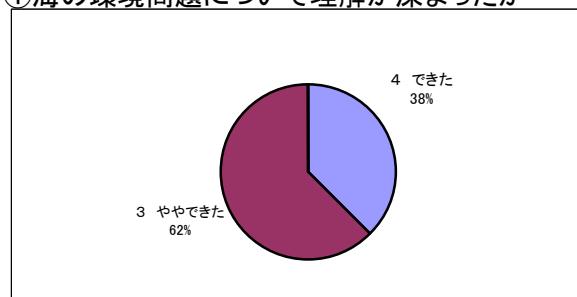


男	7	除指導者3
女	4	除指導者1
計	11	

【アンケート集計結果: 日本の大学生・指導者】

(1)この事業について4段階で答えてください。

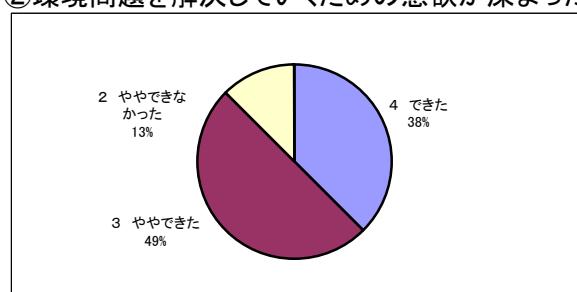
①海の環境問題について理解が深まったか



回収数8、回収率72.7%

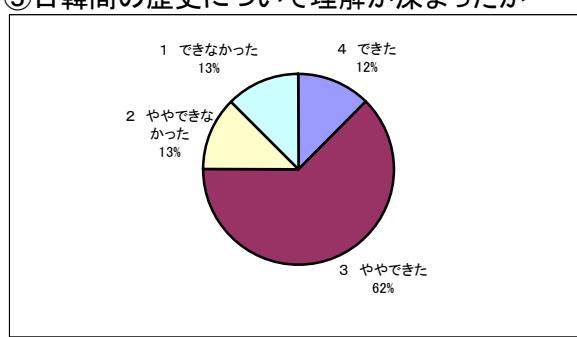
4 できた	3
3 ややできた	5
2 ややできなかつた	0
1 できなかつた	0

②環境問題を解決していくための意欲が深まったか



4 できた	3
3 ややできた	4
2 ややできなかつた	1
1 できなかつた	0

③日韓間の歴史について理解が深まったか



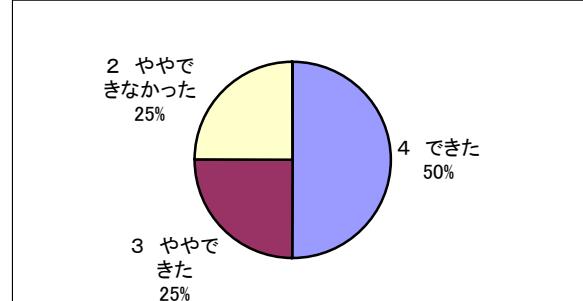
4 できた	1
3 ややできた	5
2 ややできなかつた	1
1 できなかつた	1

④国際関係を発展させていくための意欲が高まったか



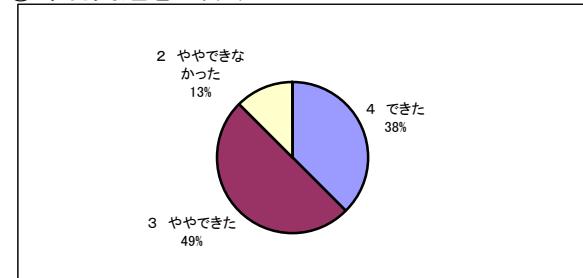
4 できた	6
3 ややできた	1
2 ややできなかつた	1
1 できなかつた	0

⑤国際的なコミュニケーション能力が身についたか



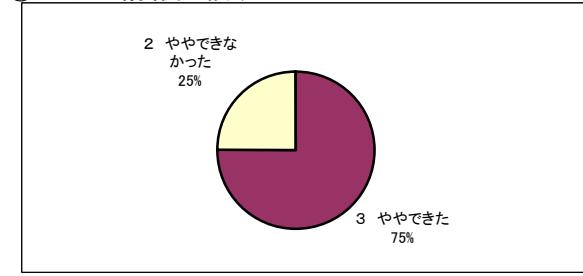
4 できた	4
3 ややでききた	2
2 ややできなかつた	2
1 できなかつた	0

⑥環境問題を意識することができたか



4 できた	3
3 ややでききた	4
2 ややできなかつた	1
1 できなかつた	0

⑦適切に情報発信することができたか



4 できた	0
3 ややでききた	6
2 ややできなかつた	2
1 できなかつた	0

自由記述

①環境問題について考えたこと

日本の海岸で海外のゴミが多く見つかっていることに驚いた

②国際問題について考えたこと

言葉の壁というものはあるが実際に面と向かって話せば身振り手振りでコミュニケーションは十分可能
言葉があまり伝わらない中でコミュニケーションを取るのが難しかった

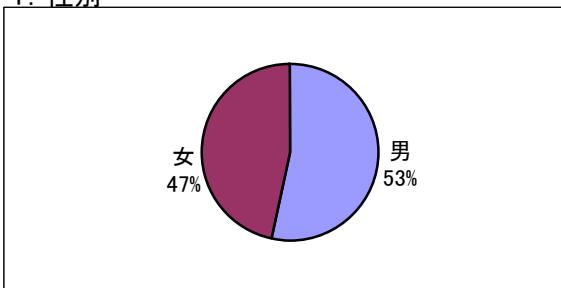
③本事業に参加しての意見・感想

言葉が通じなくてもジェスチャーなどで意志を伝えるのは大変だったが楽しかった
今回の交流事業では韓国的学生と交流するという普段の生活では体験できない経験ができて良かった。
打ち解けるまで多少不安もあったが打ち解けるのに時間がかからず多くの学生と様々な話をすことができた。
はじめはとまどったけどすぐになかよくなれて楽しかったです。

平成23年度海は人をつなぐ アンケート集計
招聘団全体:韓国学生28, 指導者2

【参加者について】

1. 性別

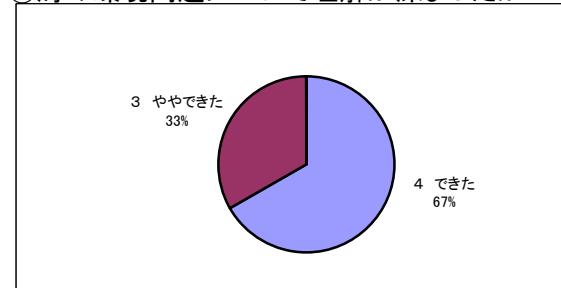


男	16	指導者2含む
女	14	
計	30	

【アンケート集計結果:韓国の大学生・指導者】

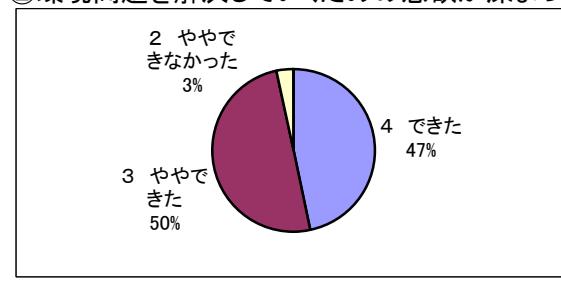
(1)この事業について4段階で答えてください。

①海の環境問題について理解が深まったか



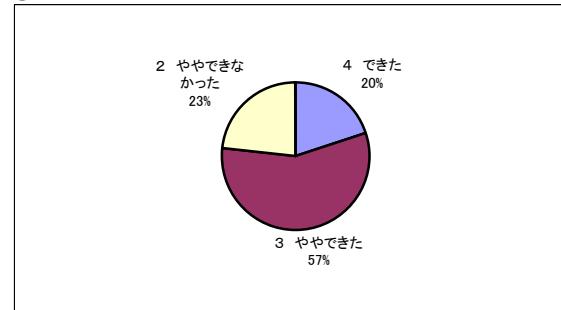
4 できた	20
3 ややできた	10
2 ややできなかつた	0
1 できなかつた	0

②環境問題を解決していくための意欲が深まったか



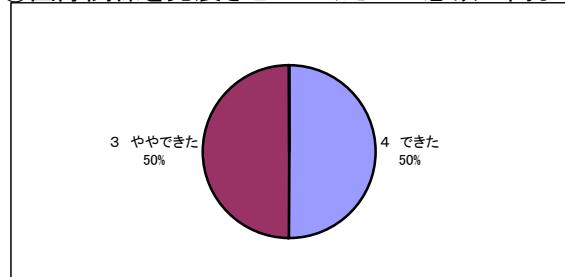
4 できた	14
3 ややできた	15
2 ややできなかつた	1
1 できなかつた	0

③日韓間の歴史について理解が深まったか



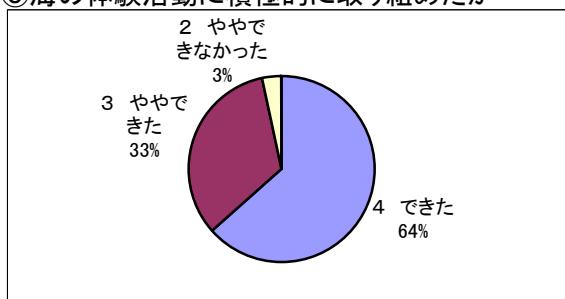
4 できた	6
3 ややできた	17
2 ややできなかつた	7
1 できなかつた	0

④国際関係を発展させていくための意欲が高まったか



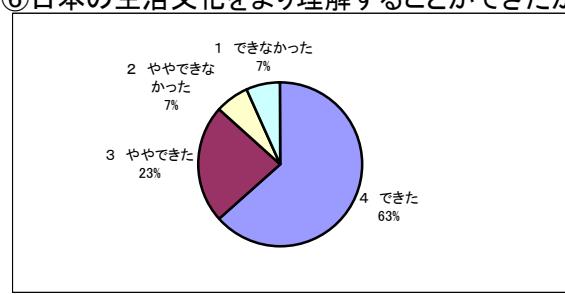
4 できた	15
3 ややできた	15
2 ややできなかつた	0
1 できなかつた	0

⑤海の体験活動に積極的に取り組めたか



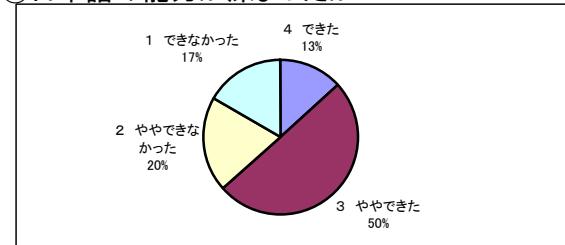
4 できた	19
3 ややできた	10
2 ややできなかつた	1
1 できなかつた	0

⑥日本の生活文化をより理解することができたか



4 できた	19
3 ややできた	7
2 ややできなかつた	2
1 できなかつた	2

⑦日本語の能力が深まったか



4 できた	4
3 ややできた	15
2 ややできなかつた	6
1 できなかつた	5

自由記述

①環境問題について考えたこと ②国際関係について考えたこと ③本事業に参加しての意見・感想

1 30代 男

① 私と関係はいないもんだいと考えた。でも流れごみを見るとき、あつこれは世界のもんだいと考えがかえられた。自然はとても大切なものだ。(日本語原文のまま)

② どうでも日本と韓国との関係が不便だことも事実だ。でもこの研修を通じて国際関係についてよく知られるようになりました。(日本語原文のまま)

③ 木うちで虫といっしょにねむことが一番思い出でした。(笑) いろいろな思い出がいっぱいあるしとてもしあわせになりました。TOBEE のみんなさんほんとにありがとうございました。(日本語原文のまま)

2 20代 女

① 韓国も中国の黄砂で被害が多いが、日本もやっぱり私たちのゴミで被害を受けることがわかった。環境という関連のつながりで世界の国家がつながっているのが改めてわかつた。

② 歴史問題はまだ問題がいっぱいあるが、民間交流を通じてもっと近づくことができるようだ。

③ 11日間の体験を通じて、日本にもっと関心が大きくなつた。

3 20代 男

① 韓国とロシア、中国などいろんな国のゴミが海流に乗って日本まで来るのをみて、環境問題はひとつの国の問題ではなく、全世界的な問題だと改めて感じた。

② 民間交流を通じてお互いのことを理解できて世界のどこへ行っても自分が国家のイメージになることを

4 20代 男

感じた。韓国と日本の関係で歴史の問題はまだあると思う。

③ 天気は暑かったが、車ではなく自転車で移動するときはゆっくり風景を見ることができて、よかったです。いろんな体験を通じて、ある程度日本のことを理解した。

5 20代 男

① 環境問題はひとつの国ではなく、国際的な問題ということを考えることができた。私だけではなく、私たちのための環境保護にがんばらなければいけないと思った。

② 日本の学生たちと協力しながら日本に関する考えももっと変わって日本語を勉強して、また今度日本に来たいと思った。

③ みなさんともお疲れさまでした。しかし、もっと韓国から来る人たちの文化や生活も考えて配慮してくださったらもっといいと思います。

6 20代 男

① ひとつのゴミだと思ったが、海のゴミということが驚きました。

② 普通、交流というと貿易だけで国際関係を考えていたが、個人間の交流を経験してとてもうれしかった。③ 一生忘れることのできない旅だった。大学のいい先輩たちと友達を得ることになりとてもよかったです。

7 20代 男

① T Vだけで見ていた汚染状況を実際に見てこれは本当に答えがないと思いました。

② 韓国と日本の関係が歴史的関係を越えて環境的にも協同で解決する問題があることを知つてもう少し友好的に考えなければならぬと思った。

③ 虫がいっぱいいやだったが、考えてみたら、一番自然にちかいところで感じることのできた研修だった。

8 20代 男

① 国内だけに限った問題だと思っていたが、こういう問題が韓国だけではなく、漂流が海岸もあることにびっくりした。

② 日本という国をもっと理解することができた。

③ 大勢の人と出会つていろんな事を見て楽しかったが、このプログラムがもっときちんとしてほしい。

9 20代 男

① 日本に来て感じたのは環境だ。海のどこへ行ってもとてもきれいだ。ゴミがいっぱいある韓国と比べて日

自由記述

①環境問題について考えたこと

本は市民の意識が高いからき綺麗だと思う。(韓国) 海水浴場は毎年大勢の人が遊びに来て帰っているが、ゴミはそのままだ。日本の海水浴場にはゴミの痕跡がない。韓国は先進国になるには、まだまだだ。

② 遠いけど近づけない韓国と日本。絶対に近づけることができない関係だ。まだ、日本は自分たちの悪いところ、間違ったところを認定しない。歪曲しているからだ。日本は私にとってまだ、嫌いな国だ。

③ いいことをたくさん見て、体験して、たくさん食べて帰ります。おかげさまで体重も 5 kg 減ったので自分の限界に挑戦する。自分の限界は 4 日の間、暮らしながら自転車で体験したが、まだ限界は見つからなかった。また挑戦したい。

10 10代 女

① 日本は分別がすごくきっちりしていてびっくりした。私たちも分別するべきだが、守られていない。すこし面倒くさく思った。私たちは自然と共生する関係を認識しながらもただ、自分中心に生きていたのではないかと改めて思った。

② 私たちの研修で日本人たちとの関係はとてもよかったです。しかし、過去の問題に関しては微妙な感情の葛藤があったと思う。韓国の方的な劣等感と日本の無意識な無視があったようで切なかつた。

③ だいたい有意義で楽しかつた。だが、最初の人と次の日はもつたない時間があつて残念だつた。コミュニケーションの問題があつたのも残念だつた。韓国的人は日本語をあ

②国際関係について考えたこと

る程度話したが、日本の方は韓国語をできる人はなかつた。次の研修ではこの点を改善してほしい。

11 20代 女

① 環境問題は全世界的な問題だ。ひとつの国が環境問題を見失うことになると、他国も被害を受けることになる。従つて、全世界で解決しなければならない課題である。

② 人と人との人間関係が重要であり、国家間の国際関係も重要だ。お互いに協力して WINWIN の関係を築くべきだ。

③ 今回の研修を通じて環境問題に改めて考えることができました。韓国ではない日本の海で韓国の人々を拾つて自転車に乗つてキャンペーンするのもすべて、自分を発展するきっかけであり、今回の機会がまたあつたら参加したい。

12 20代 男

① 最初日本に着いて、すてきな中の雰囲気で来ました。きれいな海と森がそれだ。日本だけではなく、韓国でも誘致したいが、わたしもそうだ。環境問題で私たちは自然を配慮することが必要だと思う。

② 個人的に外国を旅行することは好きだ、他の人と他の言語で他の文化を交流するのは自分が世界に生きていることを実感する。

③ 日本文化を詳しく理解することができた。考え方から日本と韓国の違いが多かつた。でも、それをひとつひとつ解決しながら私たちのお互いの心を開くことができた。本当にやりがいがあつて幸せな旅行だつた。

13 10代 女

① 思っていたより韓国の人々がいっぱいあって驚いた。他の国の人たちのゴミをみたらもっと環境を保全し、きれいにするべきだと思いました。

② 日本語をうまくできなかつたが、日本人と会話もできて楽しかつた。日本人であれ、韓国人であれ、心を開いて過ごしたら、もっといい関係になると思う

③ 日本語、日本の文化のことをたくさん知って学ぶことができてうれしかつた。環境に対してもう一度考え方を直すきっかけになつてうれしかつた。

14 10代 女

① ゴミによって環境保全、つまり人間によって環境汚染がひどくなつたことを気づいて環境汚染を減らす為にがんばらないといけないと思った。

② 環境問題だけ見ても、海の汚染はすべての国の循環。お互い協力して環境問題だけでなく、いろいろな問題を解決するべきだと思いました。

③ 日本語がとても下手だつたにもかかわらず、日本人とコミュニケーションできたのが不思議で、さまざまな交流ができたが楽しかつた。

15 10代 女

① 環境問題には国境がない。

② 日本と韓国は距離も近いし、共通点もいっぱいあってわかつてたのに、これからももっと交流して近づいた関係になつてほしい。

③ 暑苦しかつたが、文化的にも健

自由記述

①環境問題について考えたこと ②国際関係について考えたこと ③本事業に参加しての意見・感想

康的にもたくさん勉強になってうれしかった。

16 20代 女

① ゴミの問題は、他の国でも問題が大変だとは思うが、直接きれいな海にあるゴミを見たら、本当にリサイクルに関心を持って環境問題を改善するためにがんばろうと思った。

② 私たちが出会った日本人は皆、私たちに親切してくれました。これからも私たちは多様化する問題にきちんと対応して友好的な関係を続けてほしい。

③ 日本は遠くても近い国という言葉のように、わたしは日本をこんな風に思っていました。今回の研修を通じてこの前よりもっと近く感じたし、日本に対する（日本文化、食べ物）にいい感情がもてて、こういう感情が生まれたことをすべての人に感謝する。

17 20代 女

① ゴミの問題の深刻性をよく知らなかつたが、実際に拾って片づけてみたら深刻性をわかつことになつた。

② メールも交換して写真も撮つてこういう交流がすごく楽しかつたです。

③ 日本の方たちも心がよくて楽しかつた。村瀬さんが特によかつた。

18 20代 女

① 環境問題を私の国だけ関心があつたが、今回の機会を通じて国際的に関心を持つことができました。

② 国際関係にとても責任感を感じて楽しかつた。

③ 村瀬さーーーん♥

19 10代 女

① ゴミには国境がない
② 隣人の国日本と韓国にも大きな文化の違いがあるが、もっと遠い国はもっと大きな文化の違いがあるはずだ。その文化の違いを理解すべきだと思う。

③ 単純なボランティアだと思ったが、日本の文化を学び、理解できる機会になったようです。

20 10代 女

① 研修にくる前には環境に興味がなかつたが、海にあるゴミを片づけながら汚染がすごくひどいと思った。
② 日本と韓国が近くて遠い国だと思ったが、似ている物が多い国でもあって、お互いの関係がもっと近づくべきだと思う。

③ 韓国にはできなかつたカッター、スノーケリングを体験し 野生の猿をみることができてうれしかつた。とても親切してくれてうれしかつたです。

21 20代 男

①自分のうんこは自分で片づけよう。
②私たちはひとつ
③ (N A)

22 20代 女

① 普段、環境問題について考えることはなかつたが、今回の研修を通じて日本の海に韓国のゴミがあることを見て驚いた。すべての国が一緒に解決する問題だと思う。

② 日本と韓国は仲がよくないが、

日本に被害を与えることの事実をわかって、お互いに協力して問題を解決するべきだと思う。

③ 今回の事業に参加してゴミには国境がないし、自分の国だけきれいにすることだけじゃなくて、みんなが一緒に解決することがわかつた。

23 20代 男

① 環境はひとつの国だけではなく、地球にいるすべての人が考えること。
② 地球にいるすべての人が協力して、地球にある問題を解決すべきだ。
③ 日本の文化と今の日本がわかりました。

24 20代 男

① 世界共通の問題になっている環境問題のことをもっと関心を持って克服する問題だ。
② たくさんの国と民族が共存する以上、国家間に妥協することでたくさんの国際的な問題を解決し、平和を維持するための手段として必ず国際関係を強化するべきだと思います。
③ very nice

25 20代 女

① 日本の海岸にある韓国のゴミがたくさんあることを見てごめんない。わるかった
② (N A)
③ 日本語が全くできないのに日本人と楽しい時間を過ごしてとてもよかつた。景色がいいところをいっぱい見て、いろんな経験ができるよかつた。

自由記述

①環境問題について考えたこと ②国際関係について考えたこと ③本事業に参加しての意見・感想

26 20代 男

- ① (N A)
 - ② (N A)
 - ③ (N A)
- ③ この事業を推進する関係者はもちろん、日本当局者に感謝の言葉を伝えたい。環境関連の重要性をまたもう一度感じるきっかけになって感謝し、とくに日本と韓国との間の友好関係がもっと強くなってほしい。

27 20代 女

- ① 国内だけではなく、全世界的に環境に关心を持って地球を守ることに努力するべきだと思います。
- ② これからは地球村の時代なので、自分の国だけ考えるのではなく、もっとたくさんの交流を通じて一緒に集まって力をあわせるべきだと思う。
- ③ とてもいろいろな体験と日本のことがわかってうれしいです。日本人の節約精神と僕素なこころがすごい。

30 20代 女

- ① ゴミをすってたら自分の国だけでおわらない (日本語原文のまま)
- ② これからもこういう交流会の機会がたくさんあつたらいい。
- ③ だいへんだのしかった (日本語原文のまま)

28 40代 男 (教員)

- ① 環境は我々の未来がある重要な問題として環境にいいライフ・スタイルをこれからも広報して実践できるようになるべきだと思う。
- ② 韓国・日本・中国・ロシアと環境にたいする問題を共感して国家間の共助をつうじて環境問題を対処すると思う。
- ③ 環境問題に対する国家間の行績を認識して今回の事業のようなものが拡大していってほしい。

29 50代 男 (教員)

- ① 環境保護のためゴミを捨てることに対する方法などを環境保護関連教育の重要性を改めて考えるきっかけとなった。
- ② 環境保護の国際的協調体制の必要性を痛感した。とくにコミュニケーションができる基本的 感じた。

こんにちは

このアンケートは「海外ボランティアに参加する（すでに経験したものも含む）方を対象に参加の動機に対する資料を集める」ために作成しました。アンケートは無記名で実施します。調査結果は学術的研究のみに使用します。最後に、協力してくださり、まことにありがとうございます。

2011年6月

南ソウル大学 ホテル経営学科 教授 朴喜錫

Tel : 041-580-2641 CP : 016-238-7009

A. あなたが海外ボランティアをしよう（経験した海外ボランティアも含む）とした動機への質問です。

各項目の「参加動機にもっとも当てはまる欄」にチェックしてください。

①もっとも適していない ②適していない ③ふつう ④適している ⑤もっとも適している

(%)

		測定項目	①	②	③	④	⑤
ボランティア性	0 1	社会ボランティア精神を実践するため	0	3	14	45	38
	0 2	ボランティア精神（環境愛）を学ぶことができるから	0	3	10	48	38
	0 3	ボランティア点数や経験を高めるため	3	14	31	31	21
自分を追求	0 4	海外ボランティアを通じて気分転換をするため	0	3	28	34	34
	0 5	海外ボランティアに参加すると気分が良くなるから	3	3	17	45	31
	0 6	海外ボランティアに参加すると爽快になるから	3	0	31	34	28
娯楽性	0 7	海外ボランティアそのものがいいから	3	0	34	24	38
	0 8	海外ボランティアそのものが楽しいから	3	0	31	31	34
	0 9	海外ボランティアそのものを楽しむため	3	3	17	38	38
成就是性	1 0	海外ボランティアをしながら（後で）感じる満足感（喜び）	0	0	17	48	34
	1 1	海外ボランティアをしながら（後で）感じる成就感（やりがいがある）	0	0	17	45	38
	1 2	海外ボランティアをしながら（後で）感じる紐帯（同質感）	0	0	28	28	31
体験挑戦	1 3	困難なことを体験するため	3	3	17	41	34
	1 4	自分の限界を試すため	3	10	28	28	31
	1 5	冒険/スリルの挑戦するため	0	10	31	14	45
健康・休息	1 6	海外ボランティアをつうじて健康管理（維持）のため	7	28	28	14	24
	1 7	海外ボランティアをつうじてダイエット/体力鍛錬のため	7	24	17	28	24
	1 8	精神的/肉体的休息のため（ストレス解消）	0	10	31	34	24
非日常	1 9	日常を脱出してきれいな自然環境と一緒にするため	0	10	17	31	41
	2 0	日常を脱出して新たな自然と海外文化を体験するため	0	3	7	48	41
	2 1	日常を脱出していろんな自然と海外文化を経験するため	0	3	3	41	52
大同性	2 2	ボランティアを通じて同質感を形成できるから	0	0	21	38	41
	2 3	関心を持つことが似てる人（新しい）と出会うため	0	3	31	31	34
	2 4	一人ではなく、みんなでボランティアをするから楽しいから	0	0	24	38	38
親睦親和	2 5	他の人と親睦を深めるため	3	0	28	34	34
	2 6	学校の友達（先輩など）と一緒に楽しむため	3	7	21	31	38
	2 7	学校の友達（先輩など）と一緒に体験（経験）するため	3	0	23	34	38
他者の勧誘	2 8	家族/親戚などの勧誘があったから	24	34	17	3	21
	2 9	学校/教授/学科/サークルの友達（先輩 後輩）の勧誘があったから	17	10	28	17	28
	3 0	友達の勧誘があったから	24	17	31	7	21
無動機	3 1	なぜ海外ボランティアをするかよくわからない	48	31	10	3	7
	3 2	海外ボランティアは私にとって適合していない	45	38	7	3	7
	3 3	海外ボランティアをこれから続けていくべきかよくわからない	48	14	28	0	10
	3 4	特別な目的（考え）なしにただ、海外ボランティアに参加したくて	45	24	17	0	14

B あなたは海外ボランティアをする（経験した海外ボランティアも含む）の満足度、忠誠度に関する質問です。

各項目から感じた程度によってチェックしてください。

①とてもそうではない ②そうではない ③ふつう ④そうである ⑤とてもそうである

(%)

	①	②	③	④	⑤
ほかのボランティアと比べたとき、私は満足する	0	3	17	38	38
今までの私の経験を見ると 私は満足する	0	3	21	35	34
今までの私の経験を見ると 全般的に私は満足する	0	3	21	45	28
まだボランティアを経験していない周りの人々に話す	0	3	17	34	45
まだボランティアを経験していない周りの人々に勧める	0	7	17	24	52
どんなことがあってもこの後ボランティアに参加する	3	3	31	21	41
このボランティアのイメージがよくなくても今後、参加する	3	17	28	17	34

C あなたの海外ボランティア（経験した海外ボランティアも含む）の持続／中断要因に関する質問です。

各項目からあてはまる要因にチェックしてください。

①もっとも適していない ②適していない ③ふつう ④適している ⑤もっとも適している

(%)

測定項目	①	②	③	④	⑤
0 1 ボランティア活動の継続は大事な時間だと思う	0	0	10	55	34
0 2 ボランティア活動は価値がありやりがいを感じる（心理的満足感）	0	0	7	55	38
0 3 ボランティア活動を社会参加の機会としてとらえる	0	0	21	41	38
0 4 私のボランティア活動が自信の能力管理の役に立つ	0	7	24	34	34
0 5 私の周りの人が認めてくれることが満足する（教授など）	0	14	38	24	24
0 6 私との約束だから守らないといけない	0	0	21	45	34
0 7 ボランティア対象者への同情心ができた	3	21	52	10	14
0 8 ボランティア活動を習慣としているのでやらないと虚ろとなる	3	14	48	21	14
0 9 ボランティアは当然 当たり前にするべきだと思う（価値哲学）	0	21	24	28	28
1 0 ボランティア活動が自分の様々な欲求（余暇生活／社会経験）とあう	3	7	28	34	28
1 1 就職、卒業などでボランティア活動をする時間がない	10	34	34	7	14
1 2 ボランティア活動をすると体が疲れる（健康上の問題）	21	31	41	0	7
1 3 個人的な事情でボランティア活動に参加することが難しい	14	31	28	17	10
1 4 お金がかかりすぎて負担になる（経済的負担）	14	28	21	31	7
1 5 活動距離が遠すぎて時間がもったいないと思う	21	48	17	10	3
1 6 ボランティア活動の中で私の能力（コミュニケーションなど）が不足だと思う	10	31	31	10	17
1 7 ボランティア活動が期待したものと違う（欲求充足ができない）	28	24	31	10	7
1 8 ボランティアの中で私が問題解決できないのは心理的不安になる	21	21	37	14	7
1 9 周りの人（家族隣人）がボランティア活動を認めてくれない	41	31	21	7	0
2 0 ボランティア活動の必要性が感じられない（ボランティアへの理解不足）	45	28	24	0	3

個人および心理的要因

C あなたの海外ボランティア（経験した海外ボランティアも含む）の持続／中断要因に関する質問です。

各項目からあてはまる要因にチェックしてください。

①もっとも適していない ②適していない ③ふつう ④適している ⑤もっとも適している

(%)

測定項目

組織特性要因	測定項目	①	②	③	④	⑤	合計	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40																		
								28	21	17	17	17	24	34	24	7	10	0	3	28	34	34	31	52	10	0	7	45	31	14	3	7													
	21 大学（学科／サークル）に所属されていてボランティア活動をする	28	21	17	17	17																																							
	22 大学イメージの広報の方法で使う	24	34	24	7	10																																							
	23 ボランティアの人たちがお互いに頼りになる	0	3	28	34	34																																							
	24 大学（管理者／教授）から頼まれているからしょうがなく参加する	31	52	10	0	7																																							
	25 ボランティアとして報酬をもらう（有給ボランティア、経済的理由など）	45	31	14	3	7																																							
	26 ボランティア活動に活動に担当者（教授）が率先していて気に入っている。	0	14	28	28	31																																							
	27 周りから改めてボランティアをしている人たちから刺激をもらう	3	14	31	28	24																																							
	28 大学（管理者／教授）が自分を認めてくれるから	7	21	48	14	10																																							
	29 ボランティア活動を大学（管理者／教授）が体型的に管理してくれる	3	24	34	24	14																																							
	30 ボランティア活動に対する補償（ボランティア時間の認定）施賞が適切だ	3	17	28	38	14																																							
	31 ボランティア活動のチームが解体（方針）が変わって活動のやる気がでない	24	48	28	0	0																																							
	32 ボランティア機関と考えの違いがたくさんあって葛藤がある	28	45	17	3	7																																							
	33 ボランティア活動をしても機関が関心がない	31	48	17	0	0																																							
	34 管理者（教授）の態度が気に入らない	28	45	17	7	3																																							
	35 大学から無理矢理にボランティア活動を勧められた	45	41	10	0	3																																							
	36 ほかのボランティアの人たちと意見の衝突がある	52	34	14	0	0																																							
	37 ボランティア機関の否定的ニュースを見て、機関を信頼できない	41	31	21	0	7																																							
	38 ボランティア対象者たちと葛藤がある	45	34	14	3	3																																							
	39 ボランティア活動機関からこれ以上ボランティアを必要としない	45	38	10	3	3																																							
	40 ボランティア傷害保険の加入など機関の支援が足りないとと思う	24	31	21	14	7																																							

D 次はあなたに関する質問です。

01 あなたの性別は ①男性 ②女性 02 あなたの年齢は (満年齢で記録)

03 あなたの学科と学年は ①()学科 ②()学年

04 あなたがボランティアをする（経験したボランティアも含む）ための関連情報をえる方法は
[ひとつだけ選択] ①旅行会社 ②友達 ③家族や親戚 ④インターネット ⑤ブログ

⑥ネットカフェ ⑦TV・新聞・雑誌など ⑧他

05 あなたは最近3年（09-11）の間、国内ボランティア活動歴が ①ある ()回 ②なし

06 あなたは最近3年（09-11）の間、海外ボランティア活動歴が ①ある ()回 ②なし
なしは08へ

07 あなたの海外ボランティア（経験した海外ボランティアも含む）を決定した人は

①本人 ②家族親戚 ③恋人 ④友達 ⑤学校の先輩後輩 ⑥他

08 あなたの月平均お小遣いは 万ウォン

09 あなたが住んでいる地域は

①ソウル ②仁川・京畿道 ③江原道 ④大田・忠清道 ⑤釜山・大邱・蔚山・慶尚道 ⑥光州・全羅道 ⑦济州道

=====さいごまでありがとうございました=====

レディネスシート(記入例)

No. ----

안녕하십니까?

본 설문지는 해외 자원봉사에 참여한 [경험한] 분을 대상으로 참여동기에 대한 자료수집을 위해 작성되었습니다.
설문조사는 무기명으로 실시되으며, 조사결과는 오직 학술적인 연구목적으로만 사용될 것임을 약속드립니다.
끝으로 협조해 주셔서 대단히 감사 합니다.

2011년 6월

남서울대학교 상경계열 호텔경영학과 교수 박희석
Tel: 041-580-2641 CP: 016-238-7009

A. 귀하께서 해외 자원봉사를 하고자 하는 [경험한] 해외 자원봉사의 '참여동기'에 대한 질문입니다.
각 문항에서 '참여동기'에 가장 적합한 정도에 따라 (V)로 표시하여 주시기 바랍니다.

측정문항		매우 적합하지 않다	적합하지 않다	보통	적합하다	매우 적합하다
봉사성	01. 사회봉사 정신을 실천하려고	①	②	③	④	⑤
	02. 봉사정신 [환경사랑]을 배울 수 있기 때문에	①	②	③	④	⑤
	03. 봉사활동 점수나 경력을 쌓기 위하여	①	②	③	④	⑤
기분축구	04. 해외 자원봉사를 통하여 기분전환을 위하여	①	②	③	④	⑤
	05. 해외 자원봉사를 참여하면 기분이 좋아지기 때문에	①	②	③	④	⑤
	06. 해외 자원봉사를 참여하면 기분이 상쾌해지기 때문에	①	②	③	④	⑤
놀이성	07. 해외 자원봉사 그 자체가 좋아서	①	②	③	④	⑤
	08. 해외 자원봉사 그 자체가 재미있어서	①	②	③	④	⑤
	09. 해외 자원봉사 그 자체를 즐기려고	①	②	③	④	⑤
극복성취	10. 해외 자원봉사를 하면서 [후에] 느끼는 만족감 [기쁨] 때문에	①	②	③	④	⑤
	11. 해외 자원봉사를 하면서 [후에] 느끼는 성취감 [보람] 때문에	①	②	③	④	⑤
	12. 해외 자원봉사를 하면서 [후에] 느끼는 유대감 [동질감] 형성으로	①	②	③	④	⑤
체험도전	13. 어려움을 내가 직접 체험하려고	①	②	③	④	⑤
	14. 자신의 한계를 시험 (test) 하려고	①	②	③	④	⑤
	15. 모험 / 스릴 그 자체에 도전하려고	①	②	③	④	⑤
건강유식	16. 해외 자원봉사를 통하여 건강관리 [유지]를 위하여	①	②	③	④	⑤
	17. 해외 자원봉사를 통하여 체중조절 [다이어트] / 체력단련을 위하여	①	②	③	④	⑤
	18. 정신적 / 육체적 휴식 [스트레스 해소]를 위하여	①	②	③	④	⑤
일탈성	19. 일상을 탈출하여 아름다운 자연경관과 함께 하려고	①	②	③	④	⑤
	20. 일상을 탈출하여 새로운 자연과 해외문화를 체험하려고	①	②	③	④	⑤
	21. 일상을 탈출하여 다양한 자연과 해외문화를 경험하려고	①	②	③	④	⑤
대동성	22. 봉사활동을 통하여 서로 동질감을 형성할 수 있어서	①	②	③	④	⑤
	23. 관심사가 유사한 [새로운] 사람들과 만나려고	①	②	③	④	⑤
	24. 혼자가 아니라 함께 봉사하므로 즐거워서	①	②	③	④	⑤
친목친화	25. 다른 사람들과 친목도모를 위하여	①	②	③	④	⑤
	26. 학교친구 [선배 등]들과 함께 즐기고 지내려고	①	②	③	④	⑤
	27. 학교친구 [선배 등]들과 함께 체험 [경험] 하려고	①	②	③	④	⑤
타자권유	28. 가족 / 친지 등의 권유에 의해서	①	②	③	④	⑤
	29. 학교 / 교수 / 학과 동호회 동료 [선·후배]의 권유에 의해서	①	②	③	④	⑤
	30. 친구의 권유에 의해서	①	②	③	④	⑤
무동기	31. 왜! 해외 자원봉사를 하는지 잘 모르겠다.	①	②	③	④	⑤
	32. 해외 자원봉사는 나에게 적합하지 않은 것 같다.	①	②	③	④	⑤
	33. 해외 자원봉사를 앞으로 계속해야 할지 잘 모르겠다.	①	②	③	④	⑤
	34. 특별한 목적 [생각] 없이 그냥 해외 자원봉사에 참여하고 싶어서	①	②	③	④	⑤

B. 귀하께서 해외 자원봉사를 하려는 [경험한] 해외 자원봉사의 '만족도'와 '충성도'에 대한 질문입니다.
각 문항에서 느끼신 정도에 따라 (V)로 표시하여 주시기 바랍니다.

나는 해외 자원봉사를 하고자 하는 [이미 경험한] 해외 자원봉사를	매우 그럴지 않다	그럴지 않다	보통	그렇다	매우 그렇다
다른 자원봉사와 비교해 볼 때, 대체로 나는 만족한다.	①	②	③	④	V⑤
그동안 나의 경험으로 볼 때, 대체로 나는 만족한다.	①	②	③	V④	⑤
그동안 나의 경험으로 볼 때, 전반적으로 나는 만족한다.	①	②	③	V④	⑤
나는 해외 자원봉사를 하고자 하는 [이미 경험한] 해외 자원봉사를	매우 그럴지 않다	그럴지 않다	보통	그렇다	매우 그렇다
아직 자원봉사를 경험하지 않은 주변 사람들에게 좋게 이야기할 것이다.	①	②	③	④	V⑤
아직 자원봉사를 경험하지 않은 주변 사람들에게 추천할 것이다.	①	②	③	④	V⑤
어떠한 일이 있어도 향후에도 다시 자원봉사를 참여할 것이다.	①	②	③	④	V⑤
이 자원봉사의 이미지가 좋지 않아도 향후에도 다시 참여할 것이다.	①	V②	③	④	⑤

C. 귀하께서 해외 자원봉사를 하려는 [경험한] 해외 자원봉사의 '지속/중단요인'에 대한 질문입니다.
각 문항에서 '지속/중단요인'에 가장 적합한 정도에 따라 (V)로 표시하여 주시기 바랍니다.

측정문항	매우 적합하지 않다	적합하지 않다	보통	적합하다	매우 적합하다
01. 자원봉사 활동 내내 소중한 시간이라고 생각한다.	①	②	③	④	V⑤
02. 자원봉사 활동은 가치가 있으며, 보람을 느낀다.(심리적 만족감)	①	②	③	④	V⑤
03. 자원봉사 활동을 사회참여의 기회로 생각한다.	①	②	③	V④	⑤
04. 나의 자원봉사 활동이 나의 스펙관리에 보탬이 될 것 같다.	①	V②	③	④	⑤
05. 나에 대해 주변사람[교수 등]들이 인정해 주는데 만족한다.	①	V②	③	④	⑤
06. 나와의 약속이니까 지켜야 한다.	①	②	V③	④	⑤
07. 자원봉사 대상자들을 만나니 동정심이 생긴다.	①	②	V③	④	⑤
08. 자원봉사 활동을 습관처럼 해 왔으니까 안하면 허전하다.	①	V②	③	④	⑤
09. 자원봉사는 당연히 해야 한다고 생각한다.(가치철학)	①	V②	③	④	⑤
10. 자원봉사 활동이 나의 다양한 욕구(여가생활/사회경험)와 맞다.	①	②	V③	④	⑤
11. 취업, 졸업 등으로 자원봉사 활동을 할 시간이 없다.	①	②	V③	④	⑤
12. 자원봉사 활동을 하니 몸이 피곤하다.(건강상의 문제)	①	V②	③	④	⑤
13. 개인적인 사정으로 자원봉사 활동에 참여하기가 어렵다.	①	V②	③	④	⑤
14. 돈이 많이 들어 부담스럽다(경제적 부담감)	①	V②	③	④	⑤
15. 활동거리가 너무 멀어 시간이 아깝다고 생각된다.	V①	②	③	④	⑤
16. 자원봉사 중에 나의 능력(의사소통 등)이 부족하다고 생각한다.	①	V②	③	④	⑤
17. 자원봉사 활동이 기대한 것과 다르다.(욕구충족 못함)	V①	②	③	④	⑤
18. 자원봉사 중에 내가 해결할 수 없는 것은 심리적으로 부담스럽다.	V①	②	③	④	⑤
19. 주변사람(가족, 이웃)들이 자원봉사 활동을 인정하지 않는다.	V①	②	③	④	⑤
20. 자원봉사 활동의 필요성을 못 느끼겠다.(자원봉사 이해부족)	V①	②	③	④	⑤

C. 귀하께서 해외 자원봉사를 하려는 [경험한] 해외 자원봉사의 '지속/중단요인'에 대한 질문입니다.
각 문항에서 '지속/중단요인'에 가장 적합한 정도에 따라 (V)로 표시하여 주시기 바랍니다.

측정문항	매우 적합하지 않다	적합하지 않다	보통	적합하다	매우 적합하다
21. 대학[학과/동아리]에 소속되어 있어 자원봉사 활동을 한다.	①	②	③	V④	⑤
22. 대학 이미지 홍보의 방편으로 사용한다.	①	V②	③	④	⑤
23. 자원봉사자들끼리 서로 의지가 된다.	①	②	V③	④	⑤
24. 대학(관리자/교수)에서 부탁하니까 어쩔 수 없이 참여한다.	①	V②	③	④	⑤
25. 자원봉사로 보수를 받는다.(유급 자원봉사, 경제적 이유 등)	V①	②	③	④	⑤
26. 자원봉사 활동에 담당자(교수)가 너무 솔선수범하여 마음에 든다.	①	②	V③	④	⑤
27. 주변에서 새로 봉사활동을 시작하는 사람들을 보며 자극 받는다.	①	②	V③	④	⑤
28. 대학(관리자/교수)가 자신을 인정해 준다.	①	②	V③	④	⑤
29. 자원봉사 활동을 대학(관리자/교수)에서 체계적으로 관리해 준다.	①	②	V③	④	⑤
30. 자원봉사 활동에 대한 보상(봉사활동 인정, 시상 등)이 적절하다.	①	②	V③	④	⑤
31. 자원봉사 활동 팀 해체/방침이 바뀌어 활동의욕이 나지 않는다.	V①	②	③	④	⑤
32. 자원봉사 기관과 생각이 다른 부분이 많아 갈등을 느낀다.	V①	②	③	④	⑤
33. 자원봉사 활동을 해도 자원봉사기관(교수 등)이 관심도 없다.	V①	②	③	④	⑤
34. 관리자(교수)의 태도가 마음에 들지 않는다.	V①	②	③	④	⑤
35. 대학(교수)에서 무리하게 자원봉사 활동을 권한다.	V①	②	③	④	⑤
36. 다른 자원봉사자들과 잘은 의견 충돌이 있다.	V①	②	③	④	⑤
37. 자원봉사 기관의 부정적인 뉴스를 보고 기관을 신뢰할 수 없다.	V①	②	③	④	⑤
38. 자원봉사 대상자와의 갈등이 있다.	V①	②	③	④	⑤
39. 자원봉사 활동기관에서 더 이상 자원봉사를 필요로 하지 않는다.	V①	②	③	④	⑤
40. 자원봉사 상해보험가입 등 기관의 지원이 부족하다고 생각한다.	①	V②	③	④	⑤

D. 다음은 귀하의 인구통계학적 특성에 관한 질문입니다.

01. 귀하의 성별은? ①남성(V) ②여성()
02. 귀하의 연령은?(만으로 기록!) 48세
03. 귀하의 학과와 학년은? ①(부동산)학과 ②()학년
04. 귀하께서 자원봉사를 하고자 하는 [경험한] 자원봉사 관련 정보를 주로 획득하는 방법은?[1개만 선택!]
①여행사() ②친구(V) ③가족/친지() ④인터넷() ⑤블로그() ⑥카페() ⑦TV/신문/잡지 등() ⑧기타()
05. 귀하께서 최근 3년['09~11년] 동안 국내 자원봉사 활동여부는? ①있음(V)()회 ②없음()회
06. 귀하께서 최근 3년['09~11년] 동안 해외 자원봉사 활동여부는? ①있음(V)()회 ②없음()[08번 문항으로]
07. 귀하께서 해외 자원봉사를 하고 있는[경험한] 이 해외 자원봉사를 주로 결정한 사람은?
①본인 ②가족/친지() ③연인/애인() ④친구() ⑤학교 선배() ⑥기타()
08. 귀하의 월평균 용돈은? (50)만원
09. 귀하께서 주로 거주하는 지역은?
①서울(V) ②인천경기도() ③강원도() ④대전충청도() ⑤부산대구울산경상도() ⑥광주전라도() ⑦제주도()

===== 끝까지 설문에 응해 주셔서 감사 합니다 =====

トビーだより



平成23年度教育事業より

青少年教育施設を
活用した交流事業
(文部科学省委託)

「平成23年度 海は人をつなぐ」

国立若狭湾青少年自然の家では文部科学省の委託をうけて「平成23年度青少年教育施設を活用した交流事業」として「平成23年度海は人をつなぐ」を実施しました。大韓民国・南ソウル大学の学生28名と指導者2名の計30名が6月22日から7月2日までの11日間にかけて環境と交流をテーマに兵庫・京都・福井の3府県にまたがって様々な活動を実施しました。



6月22日に関西空港に到着した一行は最初の宿舎となる兵庫県豊岡市竹野町のたけのこ村へ移動し、長旅の疲れを癒やしました。23日は環境省竹野スノーケリングセンター・ビジターセンターにて、本庄四郎所長から漂着物に関するレクチャーと機縫際の手ほどきを受けました。24日は豊岡市



のコウノトリの郷公園・豊岡市立コウノトリ文化館コウノピアでの歓迎行事の後、コウノトリの野生復帰や人間と生物が共生できる環境を目指した取り組みについて学び、地元農家の方たちの指導を受けながら田んぼでのフィールドワークを行いました。その後、豊岡市から若狭湾青少年自然の家までの210kmあまりを自転車にて移動しながら、各地にて海岸漂着物の回収・分析と交流を行いました。25日

は京都府京丹後市の砂方海岸および琴引浜、26日に京都府宮津市の天橋立、28日に福井県高浜町の釈迦浜、30日に自然の家の赤石浜にて漂着物回収を実施しています。高浜町の釈迦浜ではこれまで発見されることのなかった朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)からの漂着物を初めて確認するといった実績を上げることができました。



11日間の滞在中にでは旦波口マンの会、高浜町国際交流協会、高浜韓国文化交流センター保寧の家の皆さんとの交流会のほか、京都府与謝野町立三河内小学校、福井県小浜市立内外海小学校、福井県立大学福井キャンパスを訪問、自然の家に利用団体として宿泊中の愛知県扶桑町立扶桑中学校2年生との交流コンサートをはじめ様々な地域・年代の児童・生徒・学生と一緒に環境保護と国際理解の必要性を語り合い親睦を深めました。また、舞鶴市弓揚



記念館、浮島丸殉難者追悼の碑(京都府舞鶴市)、韓国船救護記念碑(福井県小浜市)を訪れ海をつなないだ日韓間の歴史を知る事も行いました。7月1日には福井県立大学小浜キャンパス(海洋生物資源学部)にてこれまでの研修の成果の集大成として日本の学生と共同で環境交流フォーラムを開催し、各人が学んだ成果や今後、環境保全と国際関係を発展させていくためのアジアの次世代リーダーとして意気込みなどを発表しました。



「海は人をつなぐ」は本事業のスーパーバイザーである安秉杰 南ソウル大学副教授の「環境問題は一つの国、一つの地域の問題ではなく地球全体の問題だ」として漂着物を回収しながら環境を考える研修が発点となっています。豊岡市役所、京丹後市役所、宮津市役所、高浜町役場はじめ行政、民間の様々な方々の支援をいただきながら11日間の事業が実施できたことに感謝申し上げます。

写真提供:咸成翰(南ソウル大学)



海の環境を考え、行動し、海を体験する

海流による漂着ゴミを共に回収
学びあい理解しあう環境交流フォーラムを開催
青少年自然の家での海洋アクティビティ体験
総合的な人間力を備えた次世代リーダーの養成

韓国学生の日本理解の増進

海の道の歴史をたどり、文化に触れる
自転車で沿岸200km 自転車の目線で市民との交流
滞在地での環境保全活動、環境学習
韓国で学んでいる日本語のスキルアップ、実践的応用

次世代リーダーの人間力の向上

求める3つの資質 コミュニケーション能力／問題認識能力／情報発信力
総合的な人間力の向上とリーダー資質の獲得
アジアの中核として活躍できる次世代リーダーの養成

事業の評価方法

個人の成果を分かち合い振り返るフォーラム
事業を点検し達成度を検証する評価会
定量的・定質的アンケート調査

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立若狭湾青少年自然の家

平成23年度青少年教育施設を活用した交流事業「海は人をつなぐ」概要・成果

実施日 平成23年6月22日（水）～7月2日（土）<10泊11日>

参加者 韓国・大学生28名（男14, 女14）および指導者2名

日本側交流者 延べ672名

行程 関西空港着～兵庫県豊岡市竹野町～兵庫県豊岡市～京都府京丹後市網野町～京都府宮津市～京都府舞鶴市～福井県高浜町～福井県小浜市～福井県永平寺町～福井県小浜市～関西空港発

＜事業内容＞

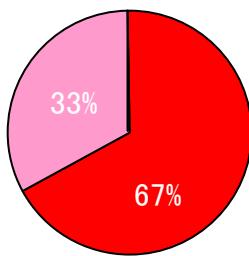
- 兵庫県豊岡市から福井県小浜市まで200kmを転車で走破し、日本の文化、歴史に触れ多くの日本人と交流
- 2府県5カ所の海浜で漂着物回収を実施
- 福井県立大学小浜キャンパス（海洋生物資源学部）にて次世代リーダー育成を目的とした環境交流フォーラムを開催
- 国立若狭湾青少年自然の家にてカッター漕艇、ボート活動、スノーケリングの海洋アクティビティを実施

＜訪問・交流実績＞

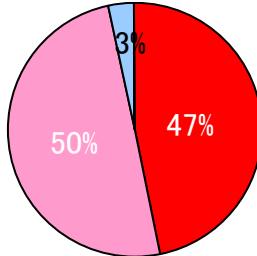
- 環境・海洋関連：環境省竹野スノーケリングセンター、豊岡市立コウノトリ文化館コウノピア、琴引浜鳴き砂文化館、福井県海浜自然センター
- 歴史・文化関連：舞鶴引揚記念館、浮島丸殉難者追悼の碑、韓国船救護記念碑、高浜韓国文化交流センター保寧の家
- 交流機関：与謝野町立三河内小学校、小浜市立内外海小学校、旦波ロマンの会、高浜町国際交流協会、福井県立大学福井キャンパス・小浜キャンパス、扶桑町立扶桑北中学校 他

＜参加者のアンケートおよび感想より（一部抜粋）＞

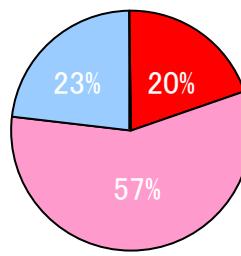
海の環境問題について理解が深まったか



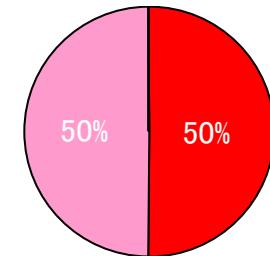
環境問題を解決していくための意欲が高まったか



日韓間の歴史について理解が深まったか



国際関係を発展させていくための意欲が高まったか



凡例：■ 大変よく深かった／高かった ■ よく深かった／高かった ■ あまり深まらなかった／高まらなかった ■ まったく深まらなかった／高まらなかった

- ・韓国と日本の関係が歴史的関係を越えて環境的にも協同で解決する問題があることを知り、もう少し友好的に考えなければならないと思った。
- ・個人的に外国を旅行することは好きで、他の人と他の言語で他の文化を交流するのは自分が世界に生きていることを実感する。
- ・日本語を上手くできなかったが、日本人と会話もできて楽しかった。日本人であれ、韓国人であれ心を開いて過ごしたらもっといい関係になると思う。
- ・隣人の国である日本と韓国にも大きな文化の違いがあるが、もっと遠い国はもっと大きな文化の違いがあるはず。その文化の違いを理解するべきだと思う。
- ・これからは地球村の時代なので、自分の国だけ考えるのではなく、もっとたくさんの交流を通じて一緒に集まって力をあわせるべきだと思う。

＜事業成果＞

韓国の学生は本事業で青少年を中心とした多くの日本人との交流を図り、また、日本の文化に直接触れることで日本への理解を深めることができた。200kmの自転車行程では5カ所の海浜での漂着物回収やコウノトリ保護の環境整備を行い、一般市民とのふれあいや各所での交流行事を通して当初計画の3倍以上の日本人との交流を持つことができた。学生は帰国後、事業報告のための展示会や発表会を実施しているが、事業担当者の訪韓が可能になれば、韓国の学生が本事業で向上させた資質について、追跡の見取りを直接担当者が確認・把握でき、相互交流の幅もより一層広がることが期待される。海に関する日韓交流の歴史についての理解が深まり、「環境問題に関する理解・解決していくための意欲」「国際関係を発展させる意欲」は高い数値であった。日本の大学生からも「日韓ともに、同様の環境問題を抱えていたし、同じように考えていることがわかり問題への理解が深まった。」「互いの国で協力して解決に取り組んで行きたい。」という感想がみられた。また、「打ち解けるまでの不安はあったが打ち解けるのに時間はかからなかった。」「言葉の壁はあるかもしれないが、面と向かって話せばコミュニケーションは可能である。」といった感想もあり、設定した「求める3つの資質」に関しても次世代リーダーとしての人間力の向上が図られたと考えられる。



平成 23 年度青少年教育施設を活用した交流事業

平成 23 年度海は人をつなぐ 実施報告書

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家

〒917-0198 福井県小浜市田鳥区大浜

TEL 0770-54-3100 FAX 0770-54-3023

URL : <http://wakasawan.go.jp>